

4. 安全安心：安全・安心・快適に住み続けられるまち

【2030年のイメージ】

支え合う活動は、防犯・防災の分野でも活発です。自治会を中心に、地道な活動を通じて、お互いの暮らしを守っています。市民による自主防災組織は、日頃からよく話し合い、さまざまな種類の災害に対応できるように、防災力を高める努力を続けています。

年齢や障がいの有無に関わらず、その人がその人らしく自立した生活を送れるように日頃から地域の人に声をかけられ、いざというときには地域の人が支えてくれる安心感があります。

戸建住宅の比率が高い福津では、高齢化の進行による空き家問題が発生しないように、早くから対策が取られてきたこともあり、若い世代への住み替えが進んでいます。

【取組方針】

都市化が進むことで犯罪や交通渋滞が増加することによる都市の安全性や快適性の低下、自然災害の発生などは、市民生活にとって不安な材料になります。

また、人口密度が低く、高齢化率も高い地域では、移動手段の不足や空き家の増加などへの対策も必要です。

どんな地域でも暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備していくことが、今後のまちづくりの課題のひとつです。誰もが安全・安心・快適に住み続けられるまちをめざします。

☆基本方針1：災害に強いインフラ整備と地域防災力を強化する

☆基本方針2：暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する

☆基本方針3：社会資本の有効活用と改善の推進体制を整備する